

## THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



創立 1954年 3月 8日  
承認 1954年 3月 30日

例会日時 毎週月曜日  
12:30 ~ 13:30  
例会場 刈谷市新栄町 3 の 26  
刈谷商工会議所内  
事務所 TEL (0566) 22-2111  
FAX (0566) 25-2111  
メール kariyar@katch.ne.jp  
ホームページ http://www.kariya-rotary.com  
会長 野村 紀代彦  
幹事 山下 雅則  
会報委員長 藤井 邦彦

2021 ~ 2022年度 国際ロータリー シェカール・メータ 会長テーマ

Serve to Change Lives 奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

## 第3144回例会プログラム

[当年度=21回目; 当月=1週目]

2022年(令和4年) 2月7日(月)

## 1. 例会……………〈司会:プログラム委員会〉

12:00 〈食事〉

12:28 1. チャイム

12:30 2. 点鐘……………〈会長〉

3. 開会宣言

4. 国歌斉唱

5. ロータリーソング斉唱……………奉仕の理想

6. 講師・ゲスト並びにビジター紹介

7. 会長挨拶並びに会長報告

8. お祝い

(誕生日祝・結婚記念日祝・入会記念日祝)

9. 幹事報告

10. 出席報告

11. 委員会報告

12. ニコニコボックス報告

13. 次週並びに次々週のプログラムの予告

(2/14) ……

卓話 「南海トラフ巨大地震に備える」

講師 地区防災対策委員会

委員 成田 孝則 様(安城 RC)

(紹介者 石川 泰隆 会員)

(2/19) ……

西三河分区インターシティ・ミーティング(IM)

式典 14:20 ~ 14:50

講演 15:00 ~ 16:45

※ YouTube ライブにて配信

※ 2月21日(月)の例会変更分です。

13:00 14. 本日のプログラム

卓話「子どもの声が聞こえるキャンパス、  
地域から頼られる大学」講師 国立大学法人 愛知教育大学  
学長 野田 敦敬 様

(紹介者 石川 泰隆 会員)

15. 謝辞

16. 点鐘……………〈会長〉

17. 閉会宣言

13:30 18. 散会

## ゲ ス ト

愛知教育大学 地域連携課長 三浦 秀樹 様



米山奨学生 劉 百恵 さん

## 出 席

会員総数 100名 出席免除 26名

出席義務者+免除者の内例会出席者 90名

欠席 7名 出席率 92.2%

前々回(1/17)の修正出席率 100%

## 幹 事 報 告

- 2月1日より、ロータリーレートは、115円になりました。
- ロータリー財団と米山の寄付金領収書をメールBOXに入れさせて頂きました。ご確認をお願い致します。
- 西三河分区 IM 記念品が送られて来ましたので本日、親睦活動委員会の皆様に配布して頂きました。

## 会長あいさつ

野村紀代彦



世界では紛争、疾病、貧困などさまざまな問題が起きていますし日本国内でもいろいろと困難な状況、助けが必要な状況にある方がいてロータリークラブはまさにそのようなことに対する奉仕団体であると思いません。

最近「やさしくない国 日本の政治経済学」という本を読みました、作者はオランダの大学で助教授をしている田中さんという方です。その本のテーマは日本人は実は冷たい国民である。自己責任を重視し利己的な国民ではないのかということでした。

例えば世界人助け指数では126カ国中107位、先進国では最下位、アメリカのあるリサーチでは、「国は貧しい人々の面倒を見るべき」という質問に同意する日本人は調査対象47カ国中最下位の59%、多くの国では9割近くが政府は貧しい人を助けるべきだと言っていますが日本人の4割は助けなくてもいいと考えている。「世界価値観調査」では自国の多くの人は信頼できると答えた日本人は33.7%、他国の人は信頼できるに対しては0.2%と人を信頼するという意識がとても低く、その値は年々数値が下がってきているデータが示されていました。これを見ると日本人はなんて情けない国民だと思うわけですが、一方、社会意識の対する世論調査では社会のために何か役に立ちたいと考えている日本人は63.4%いますし、最近流行っているクラウドファンディングでは見返りを期待する部分もありますが「思いに共感した、応援したい」という理由が多いようです。ほめたりけなしたり持ち上げたり落としたりという内容の本ですが最後にはベーシックインカムにまで触れています。

日本人は、という大きなくくりをしますと結論がミスリードされてしまいますが自分の胸に手を当てて考えさせられる部分もありました。

## お祝い

2月の会員の誕生日…盛田豊一、橋本恭典、中林久美、伊藤節夫、池田直樹、加藤大志朗、川口健二、石川友美、佐野彰彦会員。

配偶者の誕生日…野村弘子（重彦）、杉浦光子（芳一）、岡田敦子（行永）、西脇さやか（隆）様。

2月度結婚記念日…橋典子、加藤正則、市川裕大、中川耕児、上田武司会員。

2月度入会記念日…神谷光義、加藤真治、市川裕大、神野公秀、杉浦文雄、豊田貴久会員。

## 傘寿のお祝い



盛田 豊一 会員

## 卓話

### 「子どもの声が聞こえるキャンパス、 地域から頼られる大学」

講師 国立大学法人愛知教育大学  
学長 野田 敦敬 様



演題にしました「子どもの声が聞こえるキャンパス、地域から頼られる大学」は、私が学長就任時に掲げたキャッチフレーズです。これを実現するため、昨年3月に「愛知教育大学は、子ども（幼児から高校生）と共に、学生と共に、社会（学校・教育委員会、地域の企業、海外協定校など）と共に、附属学校園と共に、未来の教育を創ります」というビジョンのもと、未来の教育を協働・連携して創造する「未来共創プラン」を策定しました。

一昨年11月から昨年8月にかけて、愛知県内の全ての市町村の教育長様を訪問し、「未来共創プラン」の説明と協力を依頼しました。教育長の皆様からは、教職や教職を支える専門職を目指す本学の学生に大変期待をされており、「協力を惜しまない」とエールを送って頂きました。また、特別支援教育の充実やICT活用指導力の育成、外国人児童生徒の支援等の共通の課題のほか、各市町村特有の課題についても共有しました。

「子どもの声が聞こえるキャンパス」では、学生や教職員で考えたいいくつかのプログラムを用意し、附属学校園や各教育委員会を通して学校に働きかけ、遠足や校外学習の目的地にしてもらいました。また、本学で「科学・ものづくりフェスタ」、「あつまれ！こどもキャンパス」など近隣の子どもたちを対象としたイベントを実施しました。子どもにとっては遊びながら学べる機会、学生にとっては子ども理解と教職等への意欲を高める機会にしたいと考えています。

一方、「地域から頼られる大学」では、大学がある井ヶ谷町との連携行事の開催、日本語教育支援センターでの外国にルーツをもつ親子を対象とした土曜親子日本語教室の開催、食物アレルギーをもつ子どもへの対応のため

養護教諭らを対象としたフォーラムを、医教連携協定を結んでいる藤田医科大学と共同で開催しました。また、子ども一人に一台タブレットを支給して授業を展開するというGIGAスクール構想が進む中、これらを指導できる教員の育成が急務となっていることから、研修会を開催し、各教育委員会にも遠隔で参加できるように案内をする等、地域貢献をさせて頂いています。

